

物語

八編

大尾

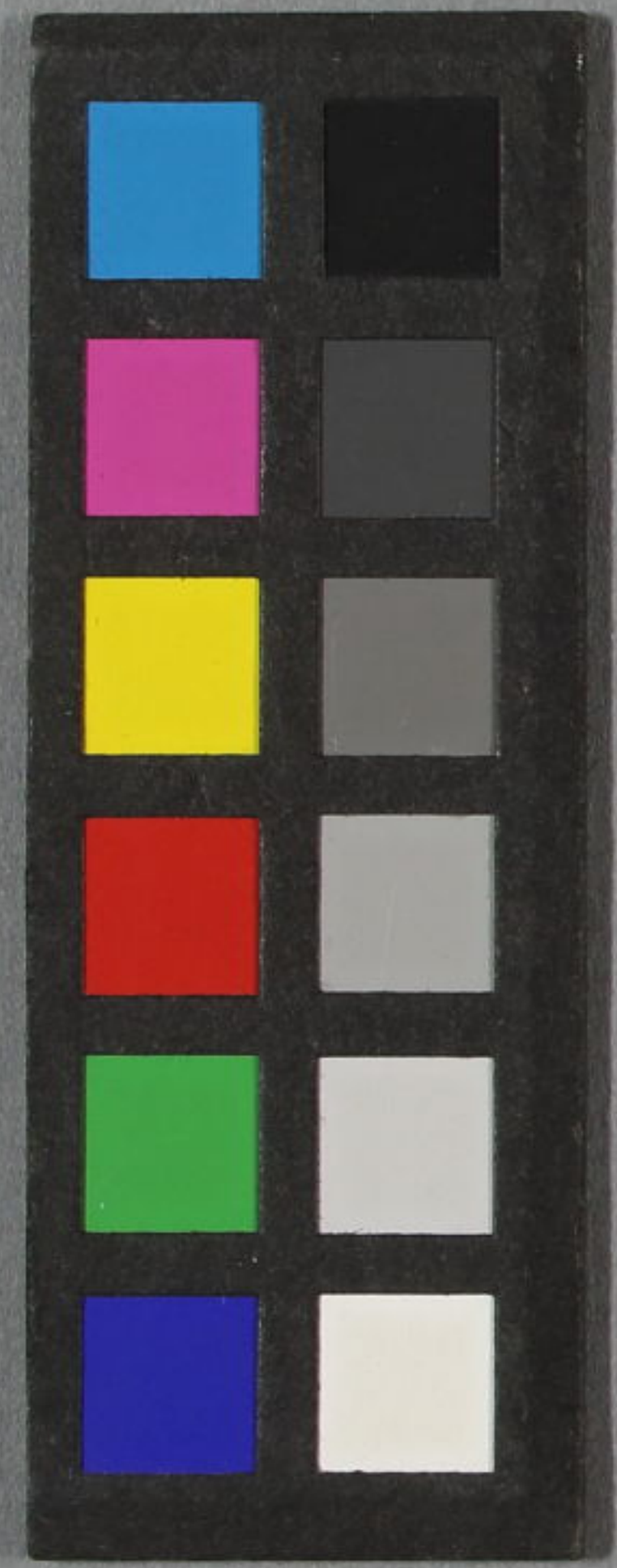
京山翁作

國清画

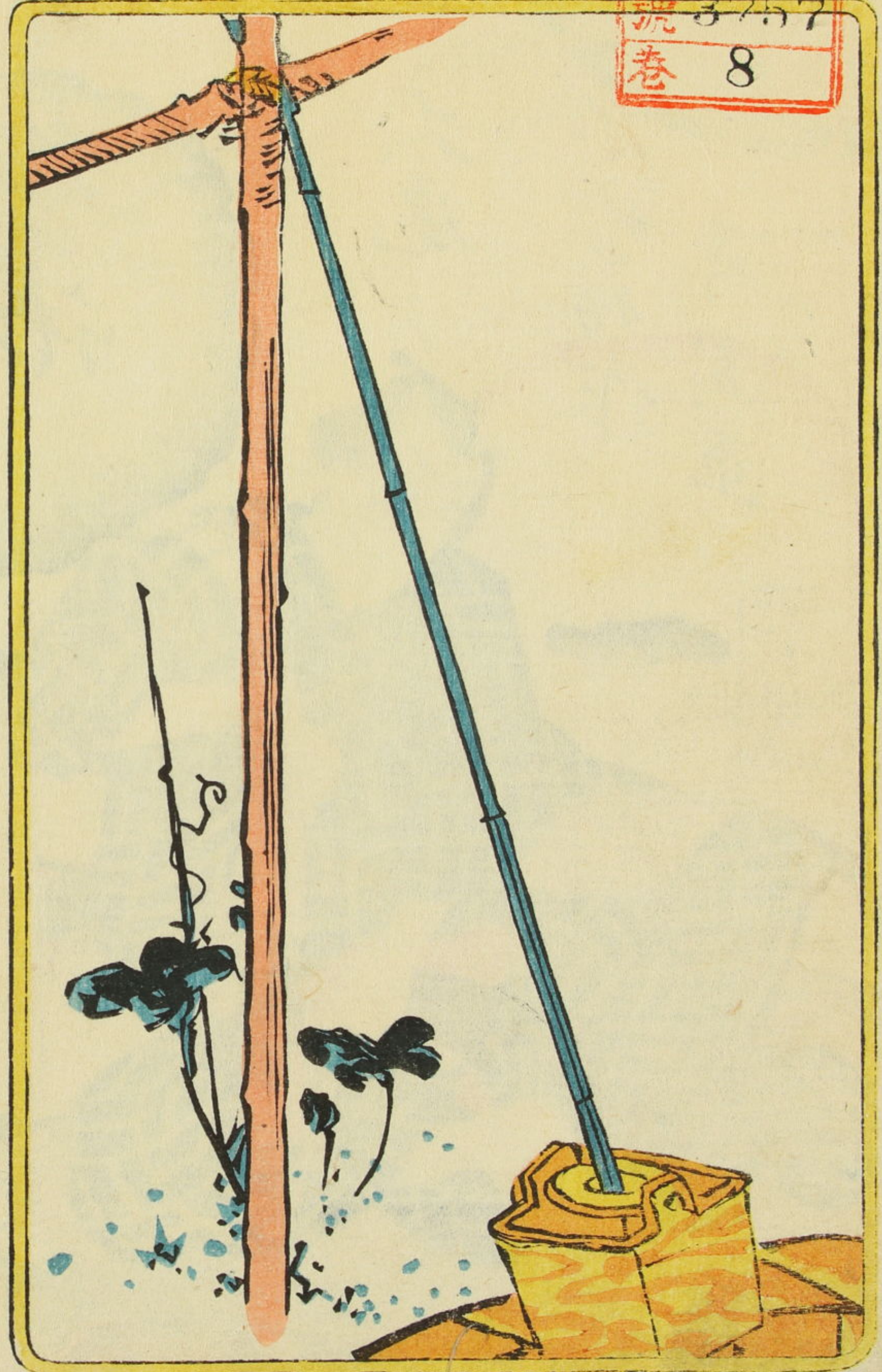
下冊



~ 13  
2757  
8



門へ13  
 號 3757  
 卷 8



六

教判朝顔物語八編序

此朝顔の初めは嘉永二年酉の春筆の  
 根根小咲初て下りつたて板不

開て千とせの今年此八編を  
 全部の大屋として序文の筆を

とんととある時世おたの麗まをのしひて  
 土藏のうしろのさくらかまへる柴の戸

ひらきと訪ひ來へる學友ある桃の屋  
 春樹るりさるる物さうりして

薄茶るどりては  
 けろふ机上おありし

此冊子の稿の本まをいひ  
 見て翁へあとし九十九あるりて

かる細る筆とるるあひらくりて今ハ



多き

り

天明

の比

草冊

子の

作者

おんくりしがと九十九て

筆とるりしをさうく

きつち

浮世冊

子あま

書残しる西鶴

自笑の八十八

らんごりけりかきまの九十  
 の筆をふる  
 人ささそ  
 あ  
 ありか  
 らめとさくの口はさす  
 かく歳老てうくまを  
 冊子作るはひらくまじり  
 多下と昏肆が  
 せらふをふ  
 けいどと老者の苦き筆も  
 らるの児の手おせらひて終紙



層籠の底ふるふるあまのむきとひ  
 けいどと春樹机上のあはれ筆とりて  
 ふとろ紙へ  
 せいひきまうくしきまけか死の朝ふを  
 ねー初ふとて幾とあもるん  
 返ー  
 知ろ名のあまもあつて  
 白ひたふあはれあつて  
 解せん  
 たひふらあはれ  
 をそのまうらふ  
 ありて  
 そーがきと  
 返る





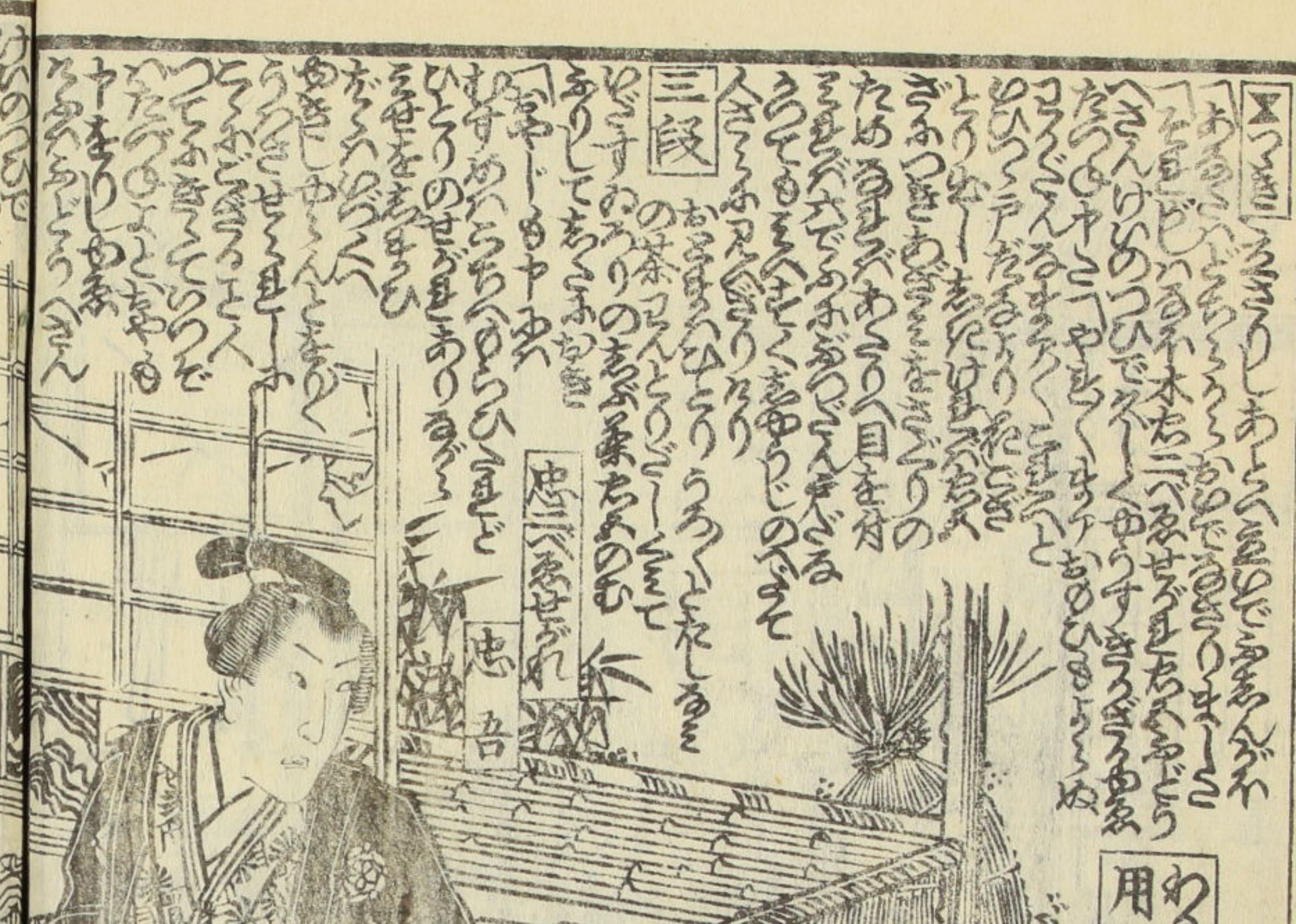


一 **おひさ**  
 二 **おひさ**  
 三 **おひさ**  
 四 **おひさ**  
 五 **おひさ**  
 六 **おひさ**  
 七 **おひさ**  
 八 **おひさ**  
 九 **おひさ**  
 十 **おひさ**

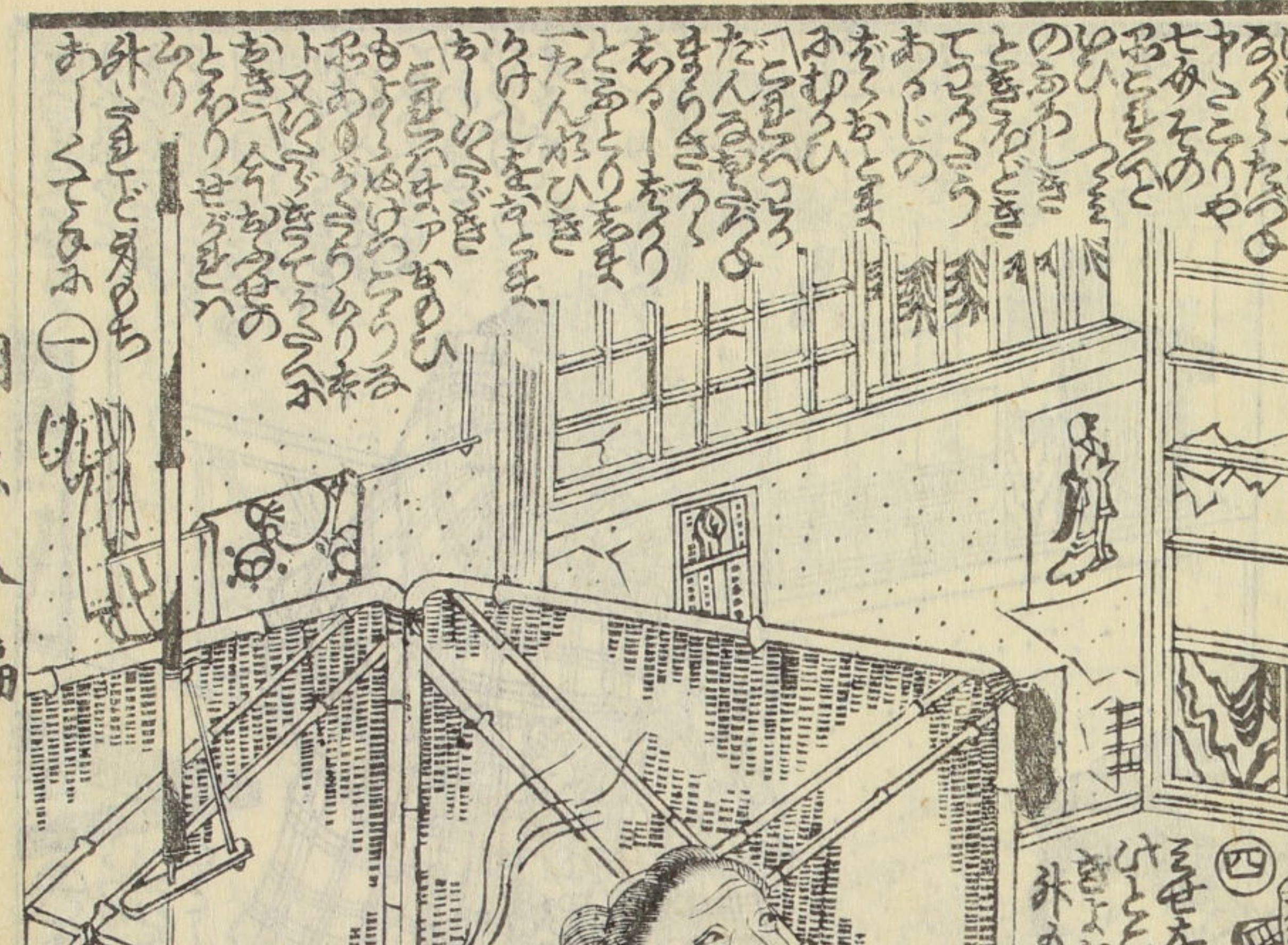
一 **おひさ**  
 二 **おひさ**  
 三 **おひさ**  
 四 **おひさ**  
 五 **おひさ**  
 六 **おひさ**  
 七 **おひさ**  
 八 **おひさ**  
 九 **おひさ**  
 十 **おひさ**

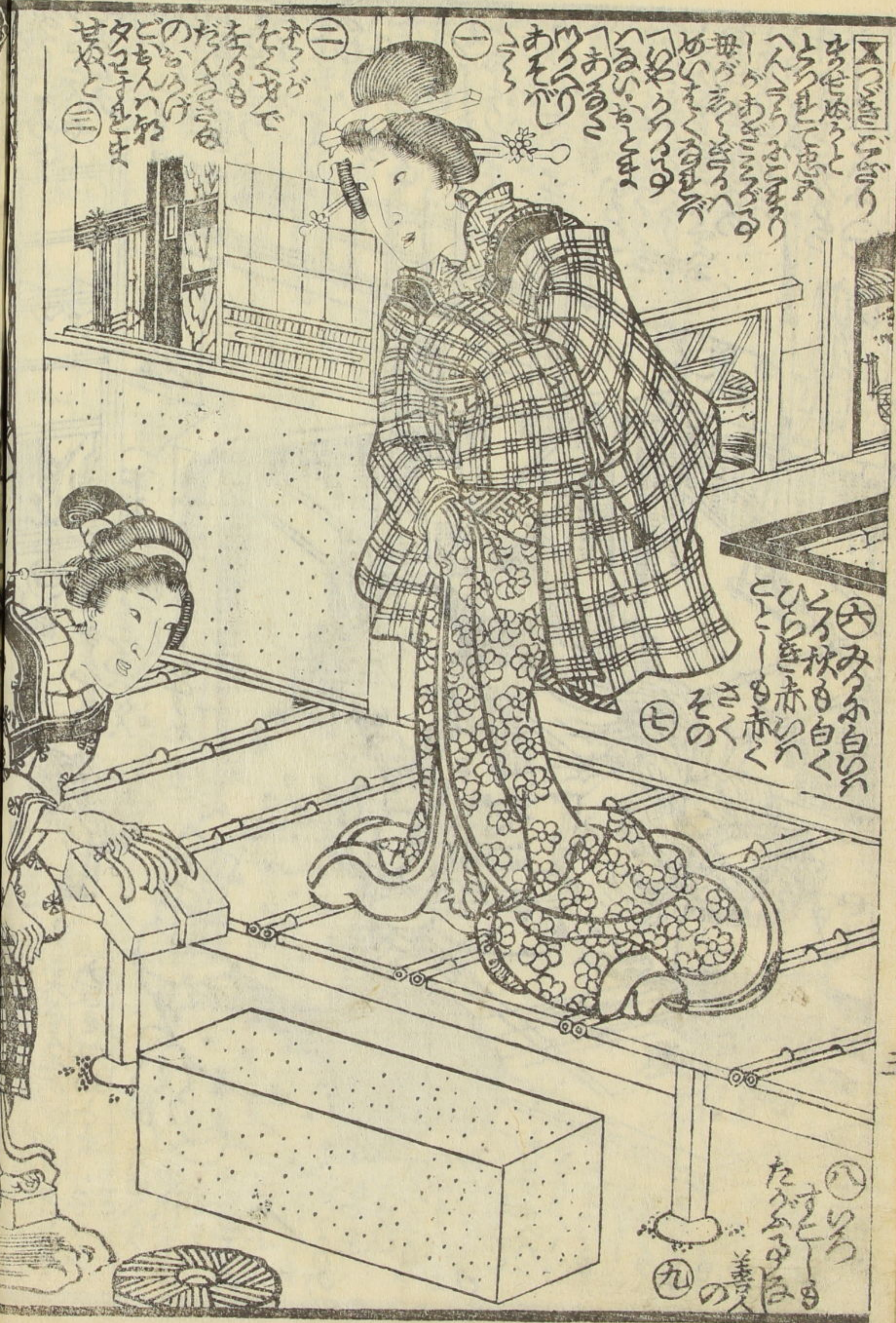
一 **おひさ**  
 二 **おひさ**  
 三 **おひさ**  
 四 **おひさ**  
 五 **おひさ**  
 六 **おひさ**  
 七 **おひさ**  
 八 **おひさ**  
 九 **おひさ**  
 十 **おひさ**

一 あまのりえ  
 二 りんねい  
 三 ちんねい  
 四 りんねい  
 五 ちんねい  
 六 ちんねい  
 七 ちんねい  
 八 ちんねい  
 九 ちんねい  
 十 ちんねい  
 十一 ちんねい  
 十二 ちんねい  
 十三 ちんねい  
 十四 ちんねい  
 十五 ちんねい  
 十六 ちんねい  
 十七 ちんねい  
 十八 ちんねい  
 十九 ちんねい  
 二十 ちんねい  
 二十一 ちんねい  
 二十二 ちんねい  
 二十三 ちんねい  
 二十四 ちんねい  
 二十五 ちんねい  
 二十六 ちんねい  
 二十七 ちんねい  
 二十八 ちんねい  
 二十九 ちんねい  
 三十 ちんねい  
 三十一 ちんねい  
 三十二 ちんねい  
 三十三 ちんねい  
 三十四 ちんねい  
 三十五 ちんねい  
 三十六 ちんねい  
 三十七 ちんねい  
 三十八 ちんねい  
 三十九 ちんねい  
 四十 ちんねい  
 四十一 ちんねい  
 四十二 ちんねい  
 四十三 ちんねい  
 四十四 ちんねい  
 四十五 ちんねい  
 四十六 ちんねい  
 四十七 ちんねい  
 四十八 ちんねい  
 四十九 ちんねい  
 五十 ちんねい

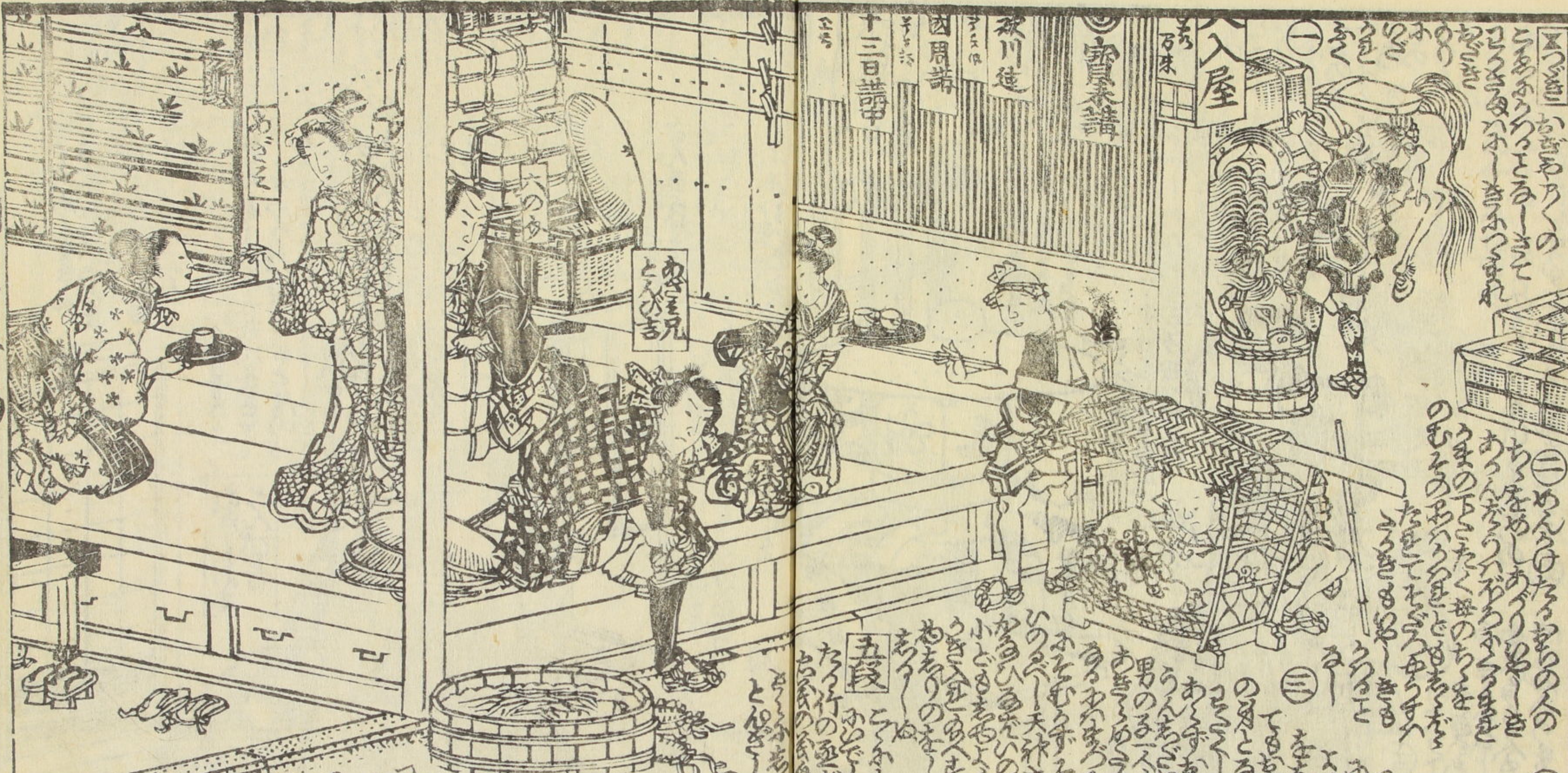


一 あまのりえ  
 二 りんねい  
 三 ちんねい  
 四 りんねい  
 五 ちんねい  
 六 ちんねい  
 七 ちんねい  
 八 ちんねい  
 九 ちんねい  
 十 ちんねい  
 十一 ちんねい  
 十二 ちんねい  
 十三 ちんねい  
 十四 ちんねい  
 十五 ちんねい  
 十六 ちんねい  
 十七 ちんねい  
 十八 ちんねい  
 十九 ちんねい  
 二十 ちんねい  
 二十一 ちんねい  
 二十二 ちんねい  
 二十三 ちんねい  
 二十四 ちんねい  
 二十五 ちんねい  
 二十六 ちんねい  
 二十七 ちんねい  
 二十八 ちんねい  
 二十九 ちんねい  
 三十 ちんねい  
 三十一 ちんねい  
 三十二 ちんねい  
 三十三 ちんねい  
 三十四 ちんねい  
 三十五 ちんねい  
 三十六 ちんねい  
 三十七 ちんねい  
 三十八 ちんねい  
 三十九 ちんねい  
 四十 ちんねい  
 四十一 ちんねい  
 四十二 ちんねい  
 四十三 ちんねい  
 四十四 ちんねい  
 四十五 ちんねい  
 四十六 ちんねい  
 四十七 ちんねい  
 四十八 ちんねい  
 四十九 ちんねい  
 五十 ちんねい





① 入屋  
 石末  
 寶来講  
 秋川達  
 因周詩  
 十三日講



② せんせいのたつたの人の  
 あつたをめしあつたの  
 あつたのたつたのたつたの  
 のたつたのたつたのたつたの  
 たつたのたつたのたつたの  
 たつたのたつたのたつたの

③ せんせいのたつたの人の  
 あつたをめしあつたの  
 あつたのたつたのたつたの  
 のたつたのたつたのたつたの  
 たつたのたつたのたつたの  
 たつたのたつたのたつたの

④ せんせいのたつたの人の  
 あつたをめしあつたの  
 あつたのたつたのたつたの  
 のたつたのたつたのたつたの  
 たつたのたつたのたつたの  
 たつたのたつたのたつたの

朝日新聞





三月廿一日



あきしめ  
あきしめ  
あきしめ

あきしめ  
あきしめ  
あきしめ

あきしめ  
あきしめ  
あきしめ

あきしめ  
あきしめ  
あきしめ

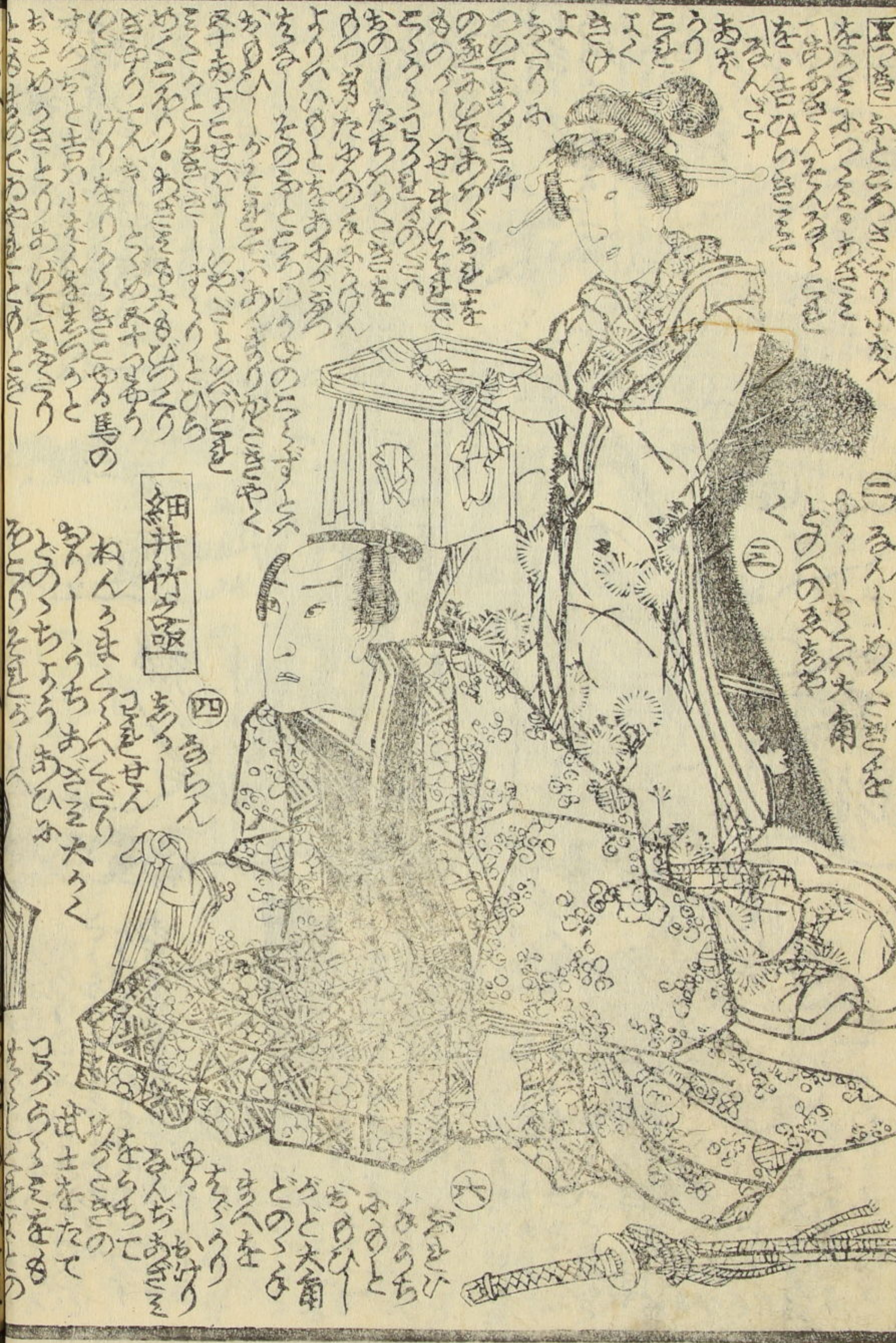


あきしめ  
あきしめ  
あきしめ

あきしめ  
あきしめ  
あきしめ

あきしめ  
あきしめ  
あきしめ

あきしめ  
あきしめ  
あきしめ



① みるくめくこきを  
かきくちく大角  
くいのあまわ

② みるくめくこきを  
かきくちく大角  
くいのあまわ

③ みるくめくこきを  
かきくちく大角  
くいのあまわ

④ みるくめくこきを  
かきくちく大角  
くいのあまわ

⑤ みるくめくこきを  
かきくちく大角  
くいのあまわ

九段 直木 忠次兵衛

直木 忠次兵衛



① みるくめくこきを  
かきくちく大角  
くいのあまわ

② みるくめくこきを  
かきくちく大角  
くいのあまわ

③ みるくめくこきを  
かきくちく大角  
くいのあまわ

① 母をうらなひて  
 けりて竹の壺  
 ちやうとこの日を  
 せしめとして竹の壺  
 後すけもた二倍なるふ  
 ありてとて竹の壺  
 ありてとて竹の壺  
 ありてとて竹の壺

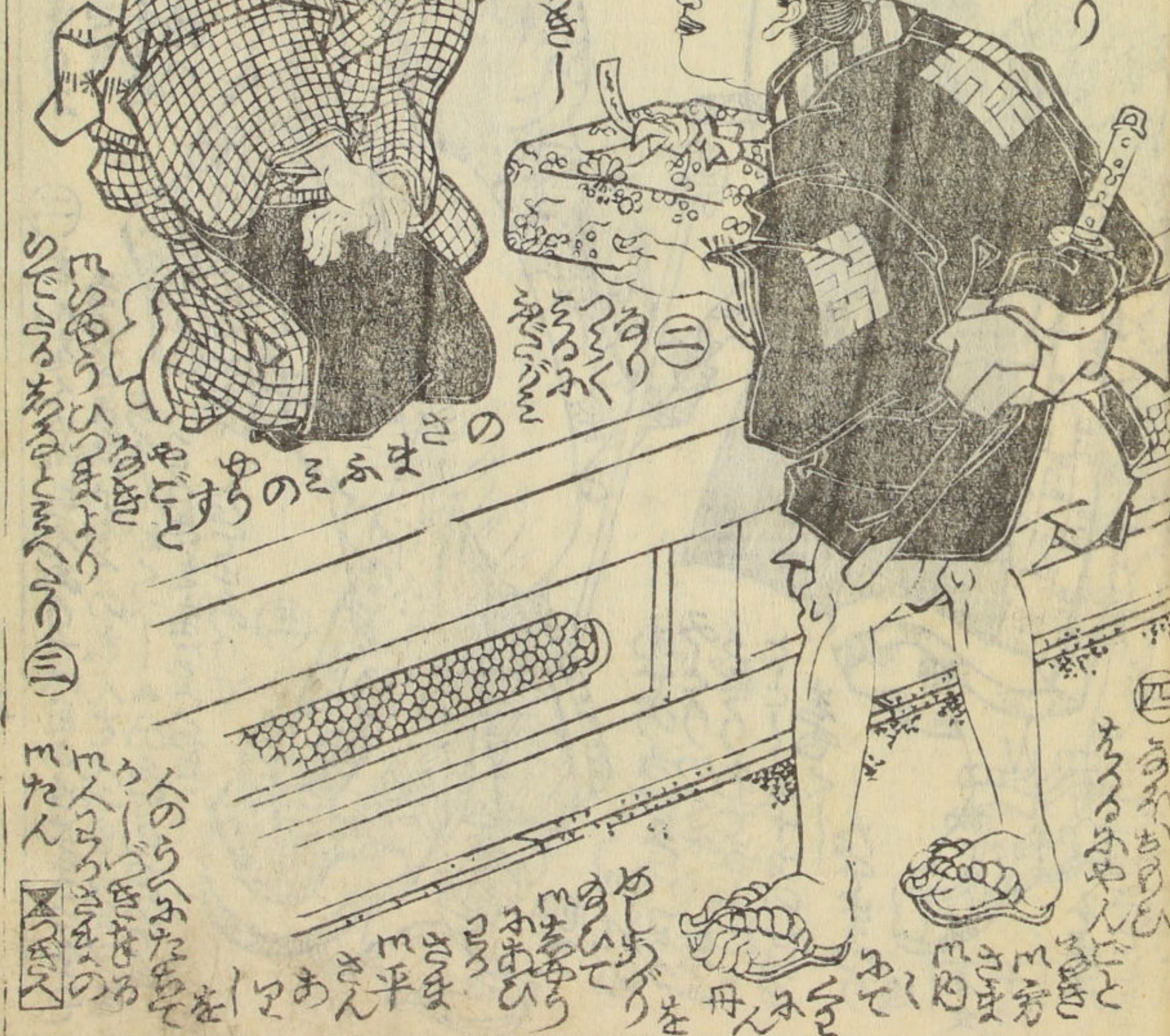


細井竹之壺

② 母をうらなひて  
 けりて竹の壺  
 ちやうとこの日を  
 せしめとして竹の壺  
 後すけもた二倍なるふ  
 ありてとて竹の壺  
 ありてとて竹の壺  
 ありてとて竹の壺

# 山東京山人作國周画

① 母をうらなひて  
 けりて竹の壺  
 ちやうとこの日を  
 せしめとして竹の壺  
 後すけもた二倍なるふ  
 ありてとて竹の壺  
 ありてとて竹の壺  
 ありてとて竹の壺



② 母をうらなひて  
 けりて竹の壺  
 ちやうとこの日を  
 せしめとして竹の壺  
 後すけもた二倍なるふ  
 ありてとて竹の壺  
 ありてとて竹の壺  
 ありてとて竹の壺







人のくちころろろあつ  
 さるゆるゆるさきりつ  
 六のすけ 東丈  
 ろくろろろま まま  
 日の夕ふどあつ  
 くのけいあんをづせ  
 まりハハハの男ハ  
 千代本きんく  
 去夫とて  
 あそびびびび  
 いろくきりり  
 よこの山の大あへ  
 のらららハ  
 いろりマナリ  
 ろろあハ男  
 ろりあハ  
 いろりせ  
 つてきま  
 いろあま  
 いろを  
 六のあ



①  
 ②  
 ③

千代本きんく  
 去夫とて  
 ④  
 ⑤  
 ⑥  
 ⑦







あつたがけんあまの  
てのまあつてめけり  
十九段まきあまの  
さつたのま  
あつたがけんあまの  
てのまあつてめけり  
十九段まきあまの  
さつたのま

馬の五六八のり  
あつたがけんあまの  
てのまあつてめけり  
十九段まきあまの  
さつたのま

あつたがけんあまの  
てのまあつてめけり  
十九段まきあまの  
さつたのま



あつたがけんあまの  
てのまあつてめけり  
十九段まきあまの  
さつたのま

あつたがけんあまの  
てのまあつてめけり  
十九段まきあまの  
さつたのま

あつたがけんあまの  
てのまあつてめけり  
十九段まきあまの  
さつたのま



〇一 かのききとて  
 のしりてあつた  
 〇二 竹の壺  
 〇三 忠吾  
 〇四 義娘

〇五 六の女  
 〇六 七の女

竹の壺



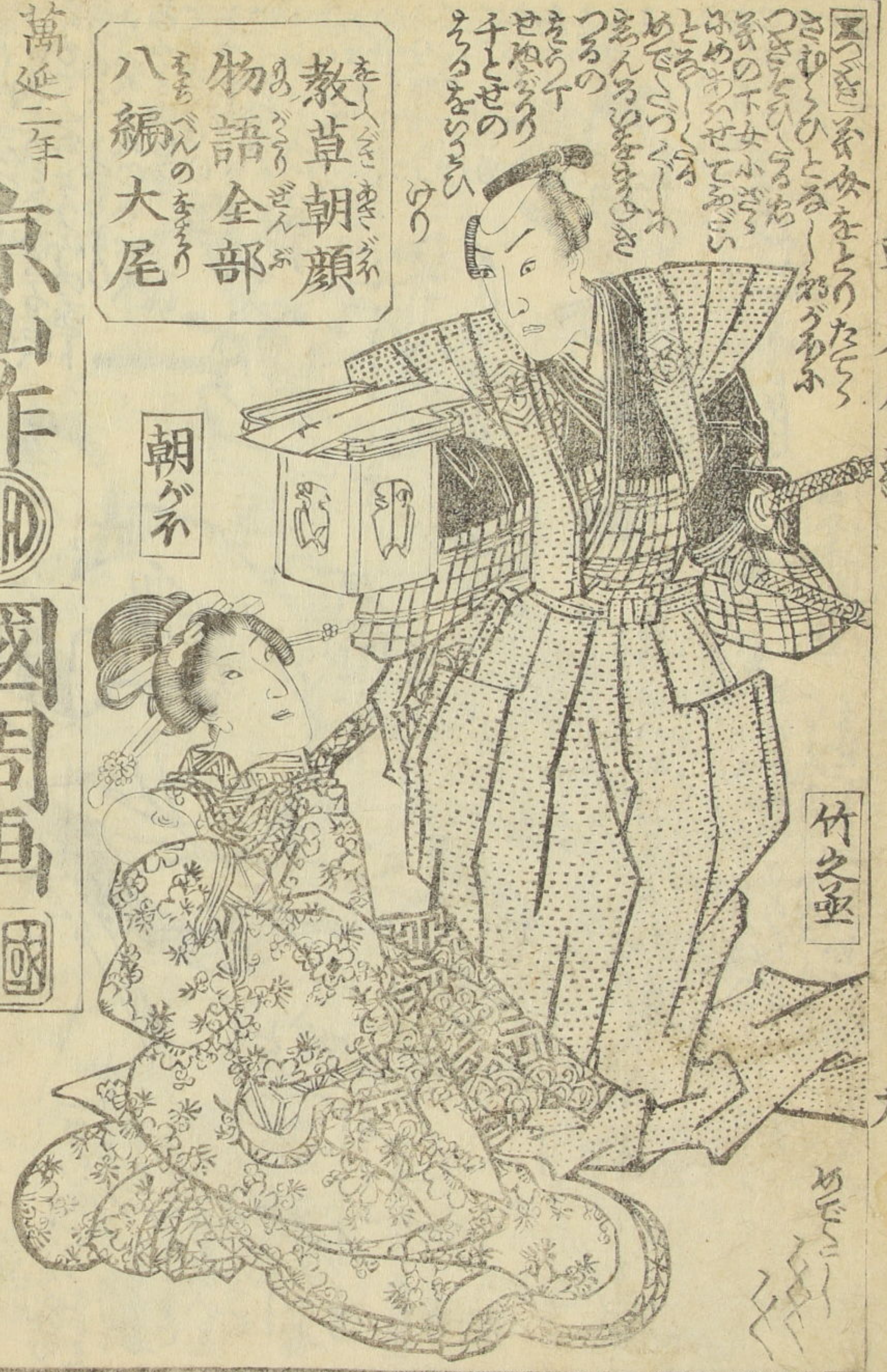


萬延二年  
酉初春

京山作

國周画

教草朝顔  
物語全部  
八編大尾



朝がね  
竹之虫

萬延二年酉年新春出板目錄

柳亭種彦作  
神刀波白鞘  
十編  
十二編

鳥永春水作  
花曇朧夜草紙  
五編  
八編

並木五瓶作  
勝相撲花の顔觸  
初編  
三編

書物地本問屋 江戸馬喰町二丁目

山東京山作  
物づり  
八編  
大尾

京山作 芳虎画  
桜姫侍紙  
三編  
四編

山東京山作  
うごふまのころ  
五編  
六編

歌川國貞画  
流楊箱根羽衣  
四編  
五編

森屋治兵衛板

書林此本問屋... 齋森屋治兵衛版

一冊齋森屋

湖目對... 三冊

一冊齋森屋

湖目對... 五冊

一冊齋森屋

湖目對... 十冊

萬... 出外目録

一冊齋森屋

湖目對... 四冊

一冊齋森屋

湖目對... 六冊

一冊齋森屋

湖目對... 四冊

湖目對... 八冊

目印 **大** 寶壽丸 打身合藥

一頁拾六銅

一包百銅

同三十二銅

食... 柴崎林兵衛製

後お... 一冊

薬 **ひき**

武乃青梅横川製

一頁拾六銅

歯の... 一貼七十二銅

虫を口ねつ... 一冊

神刀波白鞘

笠亭仙果作

梅蝶樓固貞画

四編 五編

花曇朧夜草紙

為永春水作

梅蝶樓固貞画

初編 三編

江戸馬喰町貳丁目

書物 問屋 錦森堂

地本

齋森屋治兵衛版

